

第8回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

➤ 日時・場所

平成 28 年 8 月 29 日(月)18:30~20:30 講堂

➤ チーム1ワーク

- ・市民のそれぞれの動きを支援していくという、市側が積極的に市民の活動を支援していくというものと、行政が主体の事業を市民側に落としていくものを積極的にやりましょうというものがある。市民側だけでは、市側も市民と一緒にやっということには、なかなか言及できないので、そこをきちんとしないと、市民がやるならやれば良い、という、市側が少し逃げたような感じになってしまうのではないかと。
- ・市役所も積極的に市民に対して道を開かなければならないし、市民からの申し出があればそれをきちんと受け止めなければならぬよ、という義務化からすると、行政側がちゃんと市民に触れ合えるかどうかを強化しないと。でないと相変わらず対峙し合う形にはならないかと思う。そういう話もあって「協働」ではなくて、「推進」ではないかという話があったように記憶している。その辺りのそもそも論が、このままいくとどちらになるのだろうと思う。
- ・鯖江などは、こういう書き方をしておけばどちらでも取れるという意図があるのではないかと。彼らがやっているのは、市民協働条例なのかなと思う。
- ・今回、市民活動の「推進」のための条例だけ良いのかな、とずっと気になっている。推進条例ということで市の方が、「推進」に絞っているのかなと思っていたので、意見を出す時も「推進」について出してきた。
- ・自分がやっている市民活動は、行政に頼っていない活動なので、条例があろうとなかろうと自分たちが主体でやる、という気持ちでやっているの、この検討会に入り込めない部分があった。今回はあくまでも「推進」をするということなのかと考えていた。
- ・NPOセンターの動きからすると、団体が主体で動いているものをセンターがサポートするという、市は関係ない。
- ・相互提案協働事業については、市民と行政が協働で立案するというのが今の鎌倉の形で、ちょうど真ん中（添付資料：横須賀市の市民活動促進指針3頁図「行政との関わりからみた市民活動の構造」より）にあたる。今後、今目指しているものが、ここよりさらに行政よりなのか、市民よりなのか。市民よりはもういいのかなと思っている。
- ・例えば、鯖江のように市役所内の仕事をとにかく外へ出してしまうというのは、行政が執行者として責任を持って行う領域にあたる。そこを出させるのなら、しっかりやらないといけない。市民主導の方は大丈夫だから。
- ・市民主導の方になると、市民をどう扱うか、いやな言い方をすれば、行政が市民をどう相手をしましょうか？というふうに見えてしまう。行政側は積極的にやらないのかという空気が感じられる。行政にちゃんと動いてもらう。そのために市民が監視する条例に

するのならば、行政側にちゃんと出させないといけないと思う。

- この検討会ではそういった意見がずっと出ていて、3条に市の責務について書かれているので、明文化されつつあると思う。この条文を見ていると両方（行政と市民）を包含すると思う。市民活動は今までの蓄積があって、行政は形骸化している協働事業を立て直してやっていこうよということだと思っている。
- そうすると「市民活動推進条例」という名前ではないと思う。もっと包括しなければならないし、行政側を動かさないといけない。市民にももっと関わってもらわないといけない。
- 今「仮称」にしているが、それも（仮称としている名称と実際今回検討した結果組み込まれた内容との違い）打ち出していかなければならない。
- この名称は検討会を始めるにあたっての名称なので、実際にはここで挙がっているキーワードを選んで使うのかなと思っています。
- 市民側が望んでいるのは、市民活動条例は多いが、「協働」が入っているものがない。私たちが活動していて、「協働」という部分で行政とどう組むかというのが課題でもある。「協働」という言葉が入っているものがすごく少ない。
- 少なくはないが、自治条例の中に入っている。ついでに入っている感がある。
- 1回目のこの会議の中で、どなたかが今までのNPOセンターの動きと、市民協働のことについてしっかり説明してくれた中に、私たちが今まで活動してきた蓄積についても触れて下さっていたので、やっぱり市側ももう少し協働を推進したいけれど、多分私の感じる中では、この課（地域のつながり推進課）だけがどれだけ頑張っても市役所内の他部署は動かないのだと思う。だからこの条例を作ることによってこの課がもっとスムーズに動けるように協力が得られるのではないかと思う。そういう思いがあると思うので、それが入っていかないといけない。
- 「協働」という言葉に抵抗感があったが、他に言葉がなければそのまま「協働」を入れていった方が良いと思う。
- そのためにも、指針の策定は市役所の中での決断という意味合いもある。たたき台の3条にも市の指針を作ると書いてある。だから多分そこを意識して書いてあるのだと思っている。逐条開設の指針3条に書かれている。だから覚悟はここで出来ているのかと思う。
- 基本理念の6番にも「鎌倉市職員も自らが鎌倉のまちをつくっていくその一員であることを改めて認識し、積極的にまちづくりに関わります」と書かれている。でもこれは「市民の活動の推進のために適切に支援します」という言い方なので、どうだろう。
- 鯖江の場合は、ありとあらゆることが市民のものではないかというスタンスがある。それは現実的には無理な話だが、あれくらい踏み込んでだしている感じがすごいと思う。そこまでいけると神奈川県、関東圏では、初めてになるのだろうと思う。それは多分現実的には難しいという議論になってしまうかもしれないけど、そこは市役所側にきちん

と考えてもらう入口としてはとても大事。

- ・市民が頼るとか、おんぶするとかではなくて、一緒にやってみるといふ言い方をするのであれば、市側が覚悟として、指針を出してくるぐらいでない。今頃になって条例を作ろうとしているのだから、そこまで踏み込んでいっても良いのではないか。
- ・対等というのであれば、市民側が頑張ります、という市役所側も同じように頑張りますという熱意はない。意地悪な表現だけど、市民がやるなら、市もやるか、というような感じがする。市側の覚悟をしっかりと出してほしいと思う。
- ・鯖江は本当にやっているのですごいと思う。でも鯖江も裏では結構苦勞されているのでその辺をきちんと聞いて、どうやれば大変な部分が回避できるのか、どこまでができるのか、きちんと担保されれば行政も怖がることなく出来ると思う。これからはそこを研究すると良い。
- ・自治基本条例を鎌倉は作りかけていた時に途中で終わっている。何が原因でそうなったかよく分からない。「市民活動」と「自治」、どこがどう違うのか、ただ名前を変えただけなのか、協働事業をどう含んでいるのか、はっきりと出てきているのか？内容的には出てきているとは思いますが。
- ・自治基本条例が、途中で終わった理由は何か？⇒意見がまとまらず進まなかった。中身の割れ方はどういう割れ方か？市民側からの声なので、その割れ方の話はきちんと考えておかないと市民の中にはまだそういう意見があり得るし、この勢いがそこをカバーできているか。そこを確認できると安全。でもその時から時代も変わってきているから、変わっている部分はあると思う。そこに示唆することや、あり得るという問題もあると思うので、そこを真摯に受け止めて我々の智恵でそこをカバーできれば良いと思う。なのでどんな懸念があったか知りたい。
- ・「市民活動推進」となるとそっち（市民の主动性、自立性）だけなの？となってしまうのかと思う。この文だと左側（行政の主动性、専権性）を強めるというのが良いのかな。条例名の中にもそういったことが出てくるはず。今の話からでは「推進」ではダメだとは思ふ。
- ・これまでの話では鎌倉に関わる全ての人が、協力して、応援してやっていきたいと思いますということ。
- ・鯖江の「みんな」の中には職員も含まれているイメージ。だから総括的になっているのかな。「市民主役条例」は「市民」の中に「職員」も含まれているなら、納得できる。職員も市民の一人と位置付ければ良いけれど、普通の人を読むとここでの「市民主役」は「住民主役」と見えてしまう。
- ・「いっしょにやろうよ条例」が良かったと思うが、今回の列挙の中に入っていない。これが良いと思った。タイトルは分かりやすいのが良いと思う。協働条例という意味合いだと思ふが、「いっしょにやろうよ」というのが良いと思う。
- ・名称はこのような一般的なのでもいいかなと思ふ。鎌倉ならではの名称を必死に考える

ほどではないかと。一般的で分かりやすければ良いと思う。

- 後の説明で「わたしたち」とは誰を示すのかを書いている。それで良いのかと思う。
- 前文、ナショナルトラストとかそんな大昔のことは入れなくてもいいのでは。市民憲章かどこかにも載っているし、もうそういう時代は終わって、NPOセンターが出来てから後の方がいいのではないかとと思う。「協働」も既に歩んできましたといったようなこと、他市よりも先駆けてやってきたとか、こういうことの方が良いのかと思う。
- 世代の上の人はナショナルトラストとかを知っているが、世代の下の人知らない。
- 若い人は知らないかも知れないけれど、「市民憲章」ではなく「まちづくり条例」に書かれているから今回はいいのではないか。
- 昔のこと、ナショナルトラストことについては詳しく書かれているが、近年の動きが書かれてないので、前段があったとしても今の活動の蓄積についてもう少し丁寧に書いた方がいいと思う。
- 鎌倉の街は、市民が動き出して行政を動かしているところがすごくあると思う。そこを出したい。
- びっくりするぐらい逆転している。市が決めて議会がひっくり返した例がすごく多い。
- 市民の方がしっかり発言しながら追いかけていく感が強い。それをここで表したい。
- だからこそそういう力を、フォローアップして認めながら、一から議論するくらいの寛大さが欲しい。そういったことを含めて方向性を出していけたらと思う。
- 昔から鎌倉に関わってきた方に聞きたいのは、前文で表していることは、鎌倉はそういう街と捉えれば良いのか、新しいことでも古くからのことを大事にしてきたと捉えれば良いのか？⇒結構早い時代から市民が自主的に動いてきたり、干渉しなければならないという意識が高い街である。別荘族、別荘地のお金持ちの方には力があり、行政は何をやっているのだと言えたり、自分たちで寄付をしたりしてきた。高度成長期に入っても自分たちの街を大切にしようという思いで活動してきた。
- 普通は行政任せで、言われたことをそのままやる。反対運動もしかり、自分達の街を大事にするための行動力、決断力は日本全国をみてもかなり指折りだと思う。そういう氣質が最初からあったり、高い誇りのある街だと思う。
- だから行政が結構動きにくかったり、交渉が難しかったりしたのではないか。良いか悪いかは別にして、市民の中での意見の強さが、若い人たちにとって動きやすいのかどうか、多くの市民が発言しやすいかどうか、というとまた違うと思う。
- 神奈川県内の他の自治体とは多分同じではないと思う。そしてそこは「誇るべきこと」としてあると思う。
- 行政監視団体は、今「オンブズマン」と言っているが、「鎌倉三日会」はGHQが市政がきちんと機能しているかを監視する団体を作るべしと言って作られた。会社の役員や政治家が集まって夜な夜な鎌倉の行政は最近どうだと言ったことを議論してチェックしていた。普通はやらないようなことをやっていた。

- ・市民意識の高い、また面白い街。
- ・今無関心時代に入っているから、ここにいる若い人達は特殊だけど、この世代のほとんどの人たちが、自分の仕事で精一杯で忙しく、鎌倉のまちづくりの手伝いまでできないだろう。それは日本全国同じだと思う。
- ・まちの中心に立って見た時、鎌倉だけは緑が守られていてスカイラインが全部緑。横浜も藤沢もビルが建ってしまっている。古都保存法が出来なければ、こういうことは出来なかったといことを僕らは覚えている。市民や僧侶がブルドーザーの前に立ちはだかっていた現実。それを自分たちの祖父母がやっていたとはすごいと思うし、やはり子ども達は知っていた方が良くとは思っている。
- ・総体的に前文として書かれるよりは、そういう具体的なことが書かれていた方が面白いと思う。それはそれで本とか作ると面白い。
- ・ここでは“おやつ騒動”しか出てないが、アカデミア作ってみたり、カーニバルやってみたり。
- ・今の人口構成からすると、文化人の率は下がってしまっている。世間に意見を言えるような人達が人口比からすると下がっている。普通の人達が増えてしまっている。他市と変わらなくなってしまう。
- ・でも若い人も鎌倉ブランドを求めてきているというのはあると思う。
- ・そういう人もいるけど、そうでない人もやはり増えている。だからこそ先人の経験とかは宝なので、そこをきちんと理解して伝えてもらうことは良いことで、その判断はその先。
- ・鎌倉の駅に立って緑が見えるというのは、そういう人達が守ったこと。今泉台などは山を切って住宅を建てているから、山一つ越えると崖。外側と内側の差はすごくある。旧市街は建物が全て低い。昔はすすきヶ原や今泉台とかを散歩していたが、ある日突然ブルドーザーが入って、恐々歩くような街となってしまった。以前はこの辺りは丘陵地であった。すすき野の仙石原のような景色が見えていた。
- ・鎌倉の方から見て何か変なものが見えないようにと、鎌倉カントリーのクラブハウスをお城の形にする企画はダメとなった。とにかく鎌倉から見た景色は維持しようという動きはすごくあった。
- ・先ほどの協働の話と今の話が繋げられそうに思うのだが、鎌倉は建物の高さが制限されて、東急のビルが一番高くてもあれ以上のものは建たない。都市景観の話で複雑な歴史があり、高さを抑えるのは難しかった。業者は高くしたかったし、不動産価値からしてもその制限は嫌であった。40年くらいずっと揉めてきた。商業者にとっては高さ制限するルールは困ると市と対立関係にあった。でも市民からするとこの風致を守るためにも高さは抑えたい。旧市街地の鎌倉駅から鶴岡八幡宮まで高さ制限ができれば良かったが、それを許さない事情もあってルールができないまま今に至っている。
- ・その間市役所の都市計画の部署が風致で15メートルと指導して、法的根拠もないのに

窓口でお願いをして守られてきた。これはルールが出来ていれば楽だったのに、無いが故に窓口が頑張ってせめぎ合ってきた。それは行政の努力で守られてきたという実績もある。

- 市民が運動してきたと同時に、行政も職員の皆さんが街に誇りを持って仕事をされているということもある。両方をきちんと評価して、両方を良い機会を形にして交差させていくことが必要だからこそ、両方に機会を与えたい気がするので「協働」だと思う。
- 行政の取組はなかなか評価されない。まちづくりの評価はやはり両面があると思う。対等であるというのはそういうことかと思う。
- 市民団体がよく頑張っているという評価はよく出てくる。でも行政がこういうことで頑張っているというそれは当然だと言われてしまう。そうではなくお互いに歩みよれないかと思う。
- そういう意味では行政の今までの苦勞、業績もあると思う。市長の業績かもしれないが、色んなことがあるんだということで両方評価されて良いと思う。
- 「だから一緒にやるんだね」という雰囲気になればいいと思う
- いい意味で市民団体の皆さんも対行政にはピリピリしていることはあると思う。そこを無くしていくことも必要。
- 窓口が頑張っているということだが、土地の関係で宅造ブームが去った後に、目に見える開発はなくなったけれど、千坪の屋敷が今どうなっているかというところと3階立てで隣の窓と窓がくっついてしまう距離で建っている。こういう開発がいっぱいある。これが元から（古くから）居る人たちは苦々しく思うところ。例えばこの坪数ならば樹を何本植えなさいという規制が入る。ところが30坪の所は1本の樹もない。元々は千坪の家の敷地なのに分割することを止める法律が出来ていないからこういうことが起きる。窓口は頑張り様がないのかと思う。完全には止められない。
- 規制があってそれに当てはまるまでいけばいいけど、当てはまらないと難しい。国も規制を付けかけたけれど、今は無くなってしまった。
- ミニ開発が乱行している。それを皆さんが苦々しく思っているから、行政は何をしているの？となるし、世界遺産への反発の大元もそこにある。
- そこに抵抗できる協働が行政と一緒に作れるかに興味がある。
- そうすると縛りが発生するから、制限になる。現実問題として空家対策が目の前にある。結局税制の問題から全て関わってくることになる。代替わりで子どものいない家庭はどうやっていくかが課題。市民側にも色々事情があるから、そこをどうするかが問題。大きな家を維持できないという問題もある。
- 皆さんが表現している「鎌倉らしさ」は遠くの方から見ている「鎌倉らしさ」であって、こんな中に住んでしまって、「鎌倉らしさ」なんてどこにも無いではないかという市民感情はある。だから鎌倉市とギャップがある。
- こういう話は市内に住んでいる人の自己満足ではなくて、外から来て住んだ人やこれか

ら鎌倉に住みたいと引っ越してきた人が、この条例を読んでなるほどこういうことなのかと思ってもらえるもの。

- ・鎌倉での流儀とか生活習慣と呼ぶけれど、鎌倉にきたからには税金を払っているのだからいいでしょ！ではなくて、あなたも色々やってみましょうよ！となれるようなものになりたい。
- ・一人一人が創っているという、旧鎌倉で大きな屋敷の生垣などはメンテナンスにすごくお金が掛かる中、個人の費用を投じて守ってくれているわけだから、それも鎌倉に貢献したいという思いだとみると、市民活動の一つになる。今回の条例では、このような一人で出来る活動も含めて、出来ることを一人一人がやってみようという主旨があるといい。
- ・高齢者が一人暮らしになって、大変と言っているお家を今度若い人たち皆で植木の刈込をしにいこうよといったことを市役所が予算をとってやってくれるという構図が理想的。
- ・皆でたくさんアイデアを出して、この条例を使えばすぐできるという形が作れば良いと思う。
- ・登録団体でそういう作業をしている団体がある。鎌倉の学生も参加してボランティア活動をしている。高齢者宅の庭木メンテナンスに入っているのをつい最近も聞いた。町内会で高校がやっているのもある。
- ・私たちは断片的な情報としては持っているが、今聞いてやっていると知ったら、うちの方でもやれるのではないかという空気感になればいいと思う。
- ・情報交換や情報提供が出来て、制度的なバックアップをするべきだと思う。
- ・形だけでない、実践的なものは何なのだろうかなど、大事な役割がある。
- ・市民が自分たちもやりたいという思いと、行政側もそれを押しましよう、と。それをやるための予算があるから、依頼するというような形になればいい。
- ・前文の最後の部分が実感が湧く。本当に自分がこうしたいと思える。それを皆に伝えられるといい。
- ・今昔写真集とかがすごく好きで、あれをエピソード付で聞いているようなイメージです。受信者側の声としてとても大事だと思う。
- ・それは必要だという人も居れば、必要ないという人もいる。でも聞く側は勉強になって助かると言われることが、こういうのを作る上での説得力になると思う。そういう声がどんどん上がってきて、もっと聞かせてとなるといい。
- ・原爆の話なども正にそうだと思う。話すのも大変だったり、そんなこと別に興味ないでしょ！と高齢の方はいうけれど聞いたら面白いと思うものもある。聞かせてくれと言えば喜ぶと思う。
- ・受信するばかりではダメだけれど、この話を聞いていてまだ発信できないなと思ってしまふ。若いのだから受信してからゆっくり考えれば良いと思う。発信したい高齢者の方はいっぱいいるから。

- ・そういう意味でもこの街は需要と供給があっている。言いたい高齢者と聞きたい若者がいるなら最高だと思う。
- ・昔はその辺りの小川にもカニがいっぱいいた。本当に見かけなくなった。ホタルも魚も居た。でもホタルは居る所には居る。大町も極楽寺も居る。
- ・野鳥の会の方が定期的に水質調査をして、市役所に報告している。それがどう生かされているのだろうか？ただ報告聞いただけで終わっているのか、報告の結果どうしようとなっているのか、分からない。
- ・こういうワクワクした情報というものがどうしたら条例という中に落とし込めるのだろうかと思う。経験者の話を聞いているとすごく面白いし、こういうことも出来るのだと思える。
- ・多分条例はこういうものがいっぱいあるという事実を知り、皆で聞きましょうよという話になり、頑張ろうよ、で良いと思う。次の指針で実際どういうテーマで作っていったらどういうまちづくりにしていくかは次のステップかなと思う。
- ・その指針をみんなで話し合っ、どんどん改訂しながら良いものを作っていき、適宜見直ししながら、話し合う機会を作り、定期的に集まれる場を作り、といったことを条例で言っておいて、具体的なことは指針で組み立てていくのだと思えば、条例の中身はピリピリしないで、ざっくりとで良いかという感じもある。
- ・あと条例は、なかなか変えられない。でも変えると書いてある。それはまた議会を通してということになるので大変だと思う。
- ・一番嫌なのが、市民協働、市民活動推進を積極的に進めたいという人が組長に居る時はいいけれど、そうでない人になった時が全部ひっくり返ってしまうのは困る。皇室典範の話と同じ。
- ・悪い利用をされてしまうと、改訳になってはいけない。そうすると条例は確実な所を抑えて指針で勝負というのものもあるのかもしれない。
- ・委員会を置くことになっているが、委員会が非常に重要な役割を持っている。
- ・今回のゴールは条例名ですか？うちのグループとしてはこういう方向性で良いのではないかというのがあればいいと思う。
- ・前回までは長い条例名という話が出ていた。私は「いっしょにやろうよ条例」に落ち着いている感がある。
- ・これには頭に何か付いてないですか？⇒「市民活動」を付けると、市と一緒にやらない感じになってしまう。
- ・「市民活動」であっても市と一緒にやっても良いのではないか？どの程度入るかがゼロではなく、100でもなく、間なわけだから。
- ・前文に誰がということ明記しているから、それでも良いかと思う。
- ・鎌倉に関わる人全員が“市民”に当てはまる。
- ・今から10年くらい使えるものになれば良いのではないか。市民活動はこの期間くらい

は生きているでしょうから。あまり奇天烈なものを入れても。

- ・前文の古いものを大切にすることから言っても、変に新しい言葉に作り替える必要はないのではと思う。やってきた市民活動を大切にすると、良いと思う。
- ・前文の中にこれだけ具体的に入っているから、「市民活動推進条例」の中に「協働」の意味合いは入らないですか？やはりもうちょっと踏み込んだ方がいい？
- ・「市民活動」ではすごく限定的に解釈されてしまうのが、もったいない感じがする。
- ・逆に狭く感じる？絶対崇高な活動であることは間違いないし、良いけれど、他市の仕事の中で行政の仕事の中に市民に頼ると考えた時に「市民活動団体」では信用できないなという空気が行政にあたりすると、まさに他人事にならないと良いなというのがちょっと気になる。
- ・市民活動をやらない市民にとっての入り方として、市民活動が億劫に感じられた途端に、自分は関係ないと思われるのではないかと。NPOのグループを作って定款を決めてやらなければいけないのかなと思われる。そうではなく会議に来てくれるだけでOKなのであって、簡単な所から最初のお試しとしてOKであるなら、もうちょっと幅広くがいいかと思う。
- ・私がやってきたことから言うと、最初25年前は「市民参加」だった。「市民参加」が良いと思っている。ただ「市民参加」だとかいう所に来て意見だけ言って終わりになることに近い。その次に出てきたのは「参画」も同じような意味合いで、委員会に市民が公募で入って、当時1万円とか払い、一言も話さなかったというようなことがあったり、そういう時代に「参画」という言葉が使われていた。でもその時は、「市民運動」だった。「市民運動」というのは行政のやり方に異を唱えて、反対運動をしているだけと捉えられていた。その頃「市民活動」という言葉が入ってきた時に、「運動」だと「反対」というだけだけれど、「活動」というと、市民も汗をかくことなんだと思って、「市民活動」という言葉にすごく愛着がある。
- ・今日も朝から皆汗をかいてきたけれど、すがすがしい。何となく入ってくる人は皆同じように感じている。どうでも良いような話をしながら、ただ一緒に同じ時間を過ごして活動するというその達成感みたいなものを皆でやると楽しいということをもっともっと広めたい。だから（“市民活動”が）そんなにハードルの高い言葉とは思っていない。
- ・“NPO”という言葉が付いてしまうとまた違って来るが、NPO法人を取らなくても市民活動だよと言いたいという思いがある。私は“市民活動”という言葉は大好きです。でも、皆さんが“市民活動”という言葉がダメというのであれば・・・。
- ・私は活動するまでを市民にやって欲しいと思っているので、1回活動して終わりという所までハードルを下げないといけないと思っている。自分たちが活動までをして、やっとここに加わられると思っている。市民活動に誇りを持っている。
- ・下げるという意味ではなく、範囲を広げたいという意味。
- ・鎌倉を見ているとどの会でも同じような顔ぶれが活動している現状があるので、もう少

し裾野を広げて、もう少し気軽に参加してもらえとか、今まで自分では活動とっていなかったことも活動と捉えてもらえるような裾野を広げてもらうことが、今までとは少し違うイメージを付けてもらえるという所でこういう意見が出ているのかと思う。

- ・名称としてより、「市民活動」のまま広げていく形が前文の方に織り込んでいければ良いのかと思う。
- ・「みんなで鎌倉を創る条例」とすると、受け手の人からは私も出来そうと思ったり、高校生とか少し意欲のある人がボランティアをやってみようかなと思えるようなそういう意味でハードルは少し下がるのかなと思う。
- ・今回新しく条例を作るのなら、こういう条例名を選択するのも一つかと思う。
- ・“市民活動”となると“行政活動”という対立軸が出来てしまいそうな気がする。
- ・前段から活動してきて“市民活動”にたどり着いた方と、一般名称として捉えている方とでは異なるのかも。
- ・最近自分の団体に来られる方は、HPなどで調べてこれじゃないかと思って来られる。それは自分で田んぼをやってみたいとか、ちょっと畑をやってみたいとか、入口はそこだけなんだけれど、それでやっていくと、こんなこともやっているのねと、自分の好きなことで入ってくると色んなものが見えてきて、あれもやろうこれもやろうという人もぼつぼつと増えている。それは鎌倉がどうこうではなくて、そこから始まっていく。
- ・若い方に入ってくる方は、HPなどで何をやっているのかが出ていると面白そうと興味を持って入ってきてくれる。それが一番大事だと思う。
- ・それが市民活動というものを、公共公益性のあるものに限定するか、趣味でやるものも許すかは色んな自治体で議論がある。特に補助金を出す場合、税金を使ってサークル活動を支援するってどうなの？という意見もあり、公益性のあるものならいいけどという意見がある。
- ・好きで始めたことでも、山崎を思い続けていること自体が既に公益性があるものになっていることもある。だからそういう意識を持ってやるか、知らないでやっているかは別として、事業としてこれはこういう規制があると、言ってあげる組織が必要だし、それは中間支援組織のような気がするし、行政も最近ではきちんと評価しているし、逆に言えばやっている中にも実はすごいよという話をしてあげてもいいし、それはずっとやってきて若い人たちには伝わっているはずだからそれで良いと思う。そこをきちんと見せられると良いと思う。
- ・今度、好きなことをやっているグループが補助金対象になるのか？という議論が出てくると思う。
- ・公共性が入ったものに対しては、本当はこの条例をやりたいと思っている。ただその入り口が、好きな事から始めても良いのではないかと思う。
- ・だから大上段で何とかの為とか、理念で動くということばかりでなく、好きな事から始めて貢献的なことになっていくのは良いと思う。

- ・コーラスグループも市民活動に入っている。それが高齢者のお弁当作りとなり、それを市側が委嘱して契約すると公共性に入ってしまう。
- ・例えば、市が考えて「お弁当作りをやってくれませんか」となるとこういうランクになる。一番右から初めても一番左になるという可能性はやはりある。(横須賀市の「市民活動促進指針」3頁の図より：一番右は“市民が主体的かつ自律的に活動する領域”一番左は“行政が執行者として、責任を持って行う領域”)
- ・だからNPOセンターで色んな人が入って刺激を受けながら、例えばせっかく歌を唄っているのだから今度そこへ行って唄うわとなれば良い。そうすると市民活動になるのではないか。スタートは趣味で良いと思う。
- ・今横須賀ではそこが難しく、例えば応募してきた中で「わたしたちは楽しくコーラスをやっています」は、それではちょっと・・・となる。条件付きになったりする。それを悪気はないけれど、もう少し目的を書き換えて、少しでも人の為になるような、役に立つような、とすれば良いのにとと思う。
- ・その公共性、公益性みたいなものを意識できるものでありたいとか、こちらに来るんだよという意識を持って活動している分には良いと思う。今回はこっちの所で良いけれど、右も受け入れるよという所があれば、いいわけ。
- ・そこもきちんと出した方が良く、そう意味では初めの1歩から入って良いということが、条例に入っているのも良い。そこがすごく重要なこと。そうなった時に私でもできるということになり、裾野は絶対広がる。
- ・公共性、公益性が意識を醸成していくか、取り組みをいかに皆に役に立つものに昇華していくかのノウハウを行政が支えられると良いのではないか。それは行政と一緒に手を組んでやっていけばいいのではないか。
- ・「市民活動条例」だとやっと目が出てきたところを支援してやるかとなるか。
- ・最初から行政側も市民をどんどん巻き込んでいく事業を自主的に作れるかということになった時に、これではやはり弱く、こちら側の行政がしっかりと受け止めていかないとダメだよ条例にしていかないといけないと思う。
- ・その条例が横須賀ではうまくいかない。最初から失敗を恐れる感じで手を付ける所がある。市民は責任を持ってくれるのかということがある。2, 3年で結果なんて出ないから10年待たなければならぬもの。行政側もちょっとやっただけで出来ないと言ってすぐにしょげない。
- ・だから条文の中に「頑張ってやって少し失敗しても長い目で支えていく心掛け」ようなことを入れても良いのかもしれない。
- ・そういう部分は条例名にも反映させた方が良いですか？名前に載せるのは難しいけれど、うまく載れば面白い。
- ・“市民活動”が入るとそういう部分で誤解を受けやすいということもあるなら前文に載せるしかないのかな。ならば条例名は「市民活動」が良いのではないかと考えてしまう。

- 一般的にあまり知らない人が「市民活動協働条例」「市民活動推進条例」という名前を見ただけで“活動ね”と拒否感を持ってしまうなら、条例名もソフトなものに変えた方がいいかなと思う。ただ自分にはそういう意識がないので分からないところでもある。
- だから色々な立場に立つ人がいる。主語がたくさんあるはず。私たちはたまたま活動している人や、専門的に見ている方、行政の方から見ると、良いのではないかと思いがちだが、実は裾野はもっと広い。
- その市のこと、その世界しか知らない人達はその条例名を見た時に、“自分にも出来るかな”と思えるかどうか？
- 条例名を見て、本文を見てみようという気になるような条例名が良いという意見は前から出ている。
- なるべくソフトな名前にしておいて、中身をかっちりとした今の内容などを入れるということですね。
- 外を（条例名を）従来通りかっちりしたものにしてしまうと中に（条文に）入ってこないということ。せつかく良いことが書いてあってもそこまで見てもらえないということになり得る。
- 「自分のまちなんだから、自分で何とかしようよ」という名前は間抜けな長さがあるけれど、そういうことなんだという響き方をするかもしれない。
- 「市民活動推進条例」とい名前は好きで、分かっているつもりではあるが、確かに初めて見た人がどう思うかは分からない。（先ほどの話から）その考えがあつてのことは分かるけれどでも、あまり軽々しい名前にはしたくないと思っている。
- 前文の中に“市民活動推進”という言葉を入れていくというのはどうでしょう。
- 最終的には市が構築してくれるから、色々な意見があつて良いと思う。
- 役所の職員からすると“活動推進すればいいのね、活動が起きてからすればいいのね”という空気感があるように思う。他人事になってしまうような気がする。
- 市でももっと使ってくれるようなものになれば良い。
- それは、ここの課（地域のつながり推進課）の方たちが行政のみなさんにそういう感じで（使ってくれるよう）言ってくれれば良い。
- 「市民をうまくつかってやろう条例」という腹黒い条例名にしたら面白い。両極だと思う。この条例の検討委員会の中で皆そう言っていましたよ、とこの課が行政に言うのも一つ。
- 前文で、「なお、この条例は、〇〇といい〜」など別名もつける（例：「なお、この条例は、「市民をうまくつかってやろう条例」とも言われ、「やりたいことをやれる公共公益性を持った条例」とも言われ〜」）
- NPOという言葉が日本に持ち込まれたのは15、6年前、その時には何がどうして市民の活動を行政に利用していこうかというムードを起さなければいけない理由が多分あったと思う。その時に各市がこのような条例を作ったが、15年も経ってしまえばそのムードは無くなってしまつて今はどうなの？というところはある。一般の活動の中に

浸み込んでいっていると思っているけれど、そうでもないのかな？

- ・国レベルで行政からNPOについてもう一度声を上げて言ってもらえると良いと思う。
- ・行政に求めない市民活動も増えているのではないかと思う。今までは“協働”とかで市行政と一緒にやるのが主体であったが、行政と一緒にだと色々と制約があるから、自分のやりたいことをやりたいようにやるということを選択する活動団体が、増えたように思う。
- ・“協働”は目的ではなく手段だと思う。
- ・そういう団体は、自分達で自立してやっているからこの中に入れなくてもいいと思う。市と絡めて、どうしても市と何とかしなければと思った時にこういう条例があると分かってくればいい。誰かれもがこの条例を見なくても、自覚した時にこんないい条例があるからこれを使おう。これで行政と交渉しようとなればいいと思う。
- ・私は逆に、市民活動として超優れたものがあるのだとしたら、そこから行政は学ばないといけないと思う。そういうものも仲間に入れてどうしたら行政を凌いだ素晴らしい活動ができるのかをきちんと聞いて教わるぐらいのつもりでないと、と思う。
- ・そしてそれを今度は市側が、市民の頑張りを広報して広げてあげて、次に続いてくる団体を育てていかないといけない役割を果せることになると思う。うちの会を学んでと思っている。
- ・カマコンのように経営感覚を持ってやれているということが、行政側ではなかなかいえないとよく言われる。経営のリスクが行政にはあるから、税金をつかってやるからこれはだめ、これは学べるということがあれば、市の見解を皆に広められれば、新しい団体が経営感覚とはそういうことかと学べる。
- ・相互の情報の交流という書き方をされているのには、優劣、大小など色んなことを凌駕して全てから学んでいこう、責任を持った情報を集めて広めていこうと。
- ・行政は指導していくのではなくて、中間に立ってトータルに鎌倉を良くしていくために何が必要なかをきちんと見極めて、税金でそれを運用していく。動きはあくまでも市民だったり、市民団体であったり、行政の中の仕事もそこに出てくることもあるとは思う。
- ・条例は道具、ツールであって目的ではない。
- ・市民活動を推進させたいのは誰かという市のような気がしていて、「市民活動推進条例」というと目的のように感じる。
- ・「市民活動推進条例そこで止まるのではなく、君たちも一緒にやるんだよ条例」という意味ですね。そこをミックスした名前になるといい。
- ・その場合は行政がやることとは全然別のことをやるのですか？
- ・行政と違う面白さがなければやらない。私たちはやらない。ある程度縛りはあるけれど、自由さの方が多いということがあって成り立つ。
- ・横須賀では、それを活かして行政がいいように市民を使うような便利になってはいけな

いという議論になる。それはそうだと書いていたが、市民の活動が一部である以上、むしろそうしてもらった方が良いという意見もあったりする。

- この条例を作ったのは誰かなという時、このメンバーでの検討会で作ったとオープンになった方が良いと思う。行政のどこかの事務局が勝手に作ったものではないと。
- 市民検討会を2回やったことの報告は聞きましたか？文章にしなくても言ってくれるだけで良いですよ。⇒「巻き込み力」をメインとして、皆さんの活動を楽しめるように、どうすれば楽しくなるかについてで、結構実践的なワークショップでした。条例のことも最初に説明して、検討していることを知っていただくという趣旨でした。
- 参加した人からは評判も良かった。仲間作りの手法としてこういうのもあるのだと。面白かった。
- 市民ワークショップは条例に関係したものというよりは仲良くなる手法を教えるような内容でした。4,5人で3分間だけ、自分をプレゼンする。終わった時には皆仲良くなる。
- 条例本体がしっかりしていれば名前は柔らかくても良いのかと思う。柔らかくしたら市民の人は来てくれるからいいけど、行政の方を動かせるのかと思う。
- 行政は名前に関わらずできると思う。行政は中身の方が問題。
- もしタイトルを見て市民がやりたいと思うのだったら、今の若い人は名前を見て責任がありそうなのは避けるかも。だから“鎌倉をみんなで創る”だとちょっとどうかなと思っていけない人もいると思う。
- いつも自宅で大きな庭の手入れや管理しているのなら、そういうのから習慣をもっと広げようみたいなことが分かりやすいと思う。本当は軽く1回行くだけのつもりが、一歩中に入るとどんどん引き込まれてしまうような。
- “責任”は嫌う感じがある。個人も行政も“責任”を避けるようなところが聞いているとちらほらある。
- 何かをすると、自分の周りに何かしらの責任はあるはずなのに、お金払ったのだからこれはちゃらなのではというところがある。
- 条例は多分ルールとしてあって、役所の大事な棚の中にあって全部を把握していることはないもの。それが従来の在り方。
- 鯖江などは見て、えーみたいなのところがあるが、これは特殊な例だと思う。
- そういう意味では目的がはっきりしている。例えば「ポイ捨て条例」などゴミを捨ててはいけないとか、ゴミはこういうルールで捨てるとか、条例は制約しているものが多い。でも今回の条例は前向きに支援していかなければならない、活動を支援していかなければいけないよ、自由に活動することを妨げてはいけないよ、など自由を保障する条例でなければならぬ。活動を積極的にやっていかなければならない条例でもある。
- そういう意味では、条例の中でも柔らかいものではあるはずなので、前向きな感じが伝わると良い。でも目的がぱっと分かるのもいいのかもしれないと思う。

- ・緑の関係や環境に関するなどそういう条例はいくつかありますか？⇒景観条例は中身で制約はあるけれど、良い景観を創っていくための条例ですという前向きなもの。
- ・今回はちょっと異色な条例になるのですね。だいたい条例は縛りのイメージの方が多い。条例自体、法律の一つだから縛りのあるもの。
- ・そういう意味では、市民グループがこういう活動をやりたいんですと言えば、じゃきちんとやってよという縛りの条例です。市側を制限する、市側の拒否する習慣を制限する条例。
- ・最初の話に戻りますが、全部に該当する（横須賀市民活動促進指針の3頁の図より）考えなのかと思う。一番左の守秘義務にちょっと掛かるけれど、それ以外はほぼ、それと右端の全く趣味だけどいいの？ということもだんだん成長していけば、公益性に繋がる可能性もある。
- ・皆一番右端は外した方が良いという話になるが、そのスピリッツはすごく大事。ただしそこを上手くどう育てるかはやっていきたい。
- ・“責任”が大好き。今時珍しいかもしれないが、責任逃れの若者が嫌でこういう活動を始めた。最初のハードルとしてあるだけで、一緒に何かをやり遂げたり、作ったり、汗をかくとこれをやりたいと思えるようになり、公共的なことに繋がることもできるようになるのではないかな。
- ・好きなことを守ろう、好きな事をやりたいと思った時に、責任がなければダメだし、責任があればあるほど楽しめると思う。
- ・いきなり責任があるとハードルがあるが、そこから無責任でもいいよと言っているとそこからだんだん、使命感に燃えて、活動に自信が出てきて自分がそれに得意になれば責任に対応できるキャパシティーも増えるわけだから、そこは成長の過程で、責任がふっと浮かべばいい。最初入る時は楽しいからで良い。成長のプロセスで良いと思う。
- ・行政側もそれで良いと思う。行政もやってることに意味を見出して行って、責任を持っていくというのが一番いいと思っている。
- ・横須賀の市民協働条例は、職員側に研修を行うというのがある。それによって市民とどう渡り合っていくかという研修を実施。行政側の教育も必要だし、行政側の中でもルー的な意識。特に行政側に決まった仕事がある中にこういうのが入ってくれば良いと思う。
- ・柱は3つぐらいで、市民活動は楽しいんだよ、ハードルが低いことが伝わっていくこと。そうやって広がっていった時に行政側が、こういうのがあるから出来るということを作っておくこと、活動が楽しいと思ったことから公共性に繋がっていくような、NPOセンターなのか、中間支援組織なのか分かりませんが、それを定義していくこと。そういう一連のストーリーを想定しながら、この条例が読まれていくものになっていければ、ここで話してきた方向性が固まってくるのではないかなと思う。読まれたり、実践されていないとダメだと思う。

- ・「ポイ捨て禁止条例」は全員に適用されるから守ろうと思うし、「景観条例」も地域別に方針があって、そこに家を建てる時にはそのルールに沿った家を建てる。この条例も自分たちのものだと認識されるかどうか。
- ・これも全員に関わってくるものだから、その全員感がうまく出せるかどうか。全員でなければ「市民活動推進条例」ではなくなってしまうように思う。
- ・全員に可能性があることが示せる。機会の平等。
- ・精神規定などところがあるので、前文に市民活動は誰にでも出来るはずだから、それを皆で見つけて、やりたいことをやりたいようにやりましょう、それをだんだん皆の為、まちの為になる形に昇華していける、それを支える条例ということを謳えたらいい。
- ・条例が出来上がると市のHPの奥の方にしまわれるのかな？NPOセンターのHPで大々的にPRしましょう。
- ・全戸配布の話があったのはすごく分かる。その時に自分事とするよう名前を入れられるようにするという話もあった。それで市民に近づけるという話も。
- ・市民活動をやっている人口とやってみたい人口はどれくらいいるのでしょうか？16万分の〇。
- ・鯖江は皆がやったというのが面白いと思う。鯖江はきっかけがあったし、市民としての危機感があったから、同じようにはいかない。
- ・防災はいいきっかけ、自分事をみんなで考えなければならぬから。
- ・市民としてのレベルが高くなる。生活者としての智慧が上がるのは、絶対悪いことではない。例えば、山の奥に住んでいる人は大丈夫で終わるのではなく、海の近くに住んでいる人を助けられるとしたら何が出来るか考え、どれだけ助けられるか、波が来そうな時に往復するのにどれだけ掛かるか、といったような発想があっても良いと思う。そこまで考えられれば市民全員の条例になる。他人事感を無くす。必ず出来ることがある。
- ・高齢社会も市民全員事になると思う。一人で生活することが難しくなる人がこれから絶対出てくる。一人で自分の親を二人はダメだわということが出てくる。自分の親プラス誰かの両親を見なくてはいけない社会になるはず。その辺も一つのきっかけになってくれると良いと思う。
- ・“想像力を働かせてみませんか”というのを入れてみませんか？例えば自分が今若者だけど、50年経って、杖をついて歩けなくなったとしたら、困ったと思う時に、若者が車で送ってあげると言ってくれたら助かる。これが想像力。
- ・だったら、土曜日自分が車を出して送り迎えするようなことをやってみようかなとか、市民活動、ボランティアは、想像力、何が自分ではできて、どう人を救えるか、どう皆で楽しくできるかだと思ふ。
- ・“想像力を働かせてみませんか”というようなことが入っていると何それ！と思って想像力を働かせて自分出来ることを考えられるようになるのではないかと思う。そういうことが原点。
- ・農作業などは、ただ畑を耕しているだけでは、重労働でしかないけれど、今植えている

ものの実がなり、収穫して、食べた時のことを想像するから、自分もやってみようかなと思うのではないですか。後の皆の楽しいことが想像できる。そういう言葉があれば近づけられないでしょうか？前文に入れる？どういう風にするかは考えなければならないが、自分のことにするというのそういうことなのかなと思う。

- 思いやり、心配りなど自分で出来ることとは想像することですね。それで失敗したらその例を皆に教えてあげるとかできれば良いのではないかな。
- 仙台では嵐の中に巻き込まれていますね。テレビで気象の人が“対策してください”ばかりを言うので、“対策”ってどういうことかそれは逃げることしかない。それだけでいいの？あれ何とかしてよというのが市民の感情だと思う。
- 想像力と体験。挑戦、勇気。
- 条例名がまとまってないのが残念。絞り込む作業は、グループのメンバーが変われば色々出てくると思うので、それよりはこういったことが大事なことはこうだねという条件がたくさん出てきた方が事務局がまとめる時にもいいのかも知れないと思っていた。
- 名前はパブコメを受けた最後で良いのではないかな。3月31日でも良いような気がする。結局行政が決めるのでしょ？
- 10、20年ずっと行政と関わって活動をしてくると行政の成長度合いとかも感じますよね。だんだん柔らかくなってきた。最初はこちらがどういうものかが分からないという時代は、一生懸命避けていたけど、今は避けられないからね。

➤ チーム2ワーク

- ・市民活動何とか条例よりは「鎌倉未来条例」等の方がいい。サブタイトルは付けられないの？
- ・例えば、サブタイトルとして「あなたもチーム鎌倉です」と言われるとピンとくる。
- ・「鎌倉の未来」はとても魅力的に感じた。
- ・「老若男女しあわせ鎌倉づくり条例」
- ・「あなたからツナガルまちづくり条例」（ツナガルは強調するために敢えてカタカナ）これは中学生のお子さんもピンとくる。
- ・内容が分かりすぎている私たちより、タイトルでキャッチーに掴む。読みたくなるし、何だろうと興味を引く。
- ・「あなたからツナガルまちづくり条例」は評判が良いですね。
- ・ネットなどで、こういう風にしたかったとか、ここがイヤだったとか、日々のエピソードを言うと、こういう風にできるよなど複数が応じてくれるので、そんな感じで、この団体でやるけど、この団体で足りない所をこちらの団体でやっていくと意見が出し合えるのではないかな。
- ・ちょっと言ったひと言が色々な人のアドバイスで施策の一つに繋がっていく実感が持てるのが良いのではないかな。そういうことを学校で勉強したらどう思う？と子ども（大学生）に聞くと、面白いと思うと言っていた。
- ・自分事について、世代毎でピンとこないこともあるという話では、中学生にとってはピンとこない。
- ・タイトルなどは若い世代に聞くと良いものがでてくる。
- ・タイトルで興味を持ってもらう、タイトルで内容を分かってもらうのは大切。
- ・サブタイトルについて「あなたもチーム鎌倉です」「わたしもチーム鎌倉です」
- ・鎌倉であるということをつけ加えると「あなたからツナガル鎌倉のまちづくり条例」
- ・「条例」はタイトルの後ろにつけなければならないのか？（〇〇〇条例）前に付けたタイトルにすることはできないか？（条例〇〇〇）例：「条例わたしがやります」
→法制に確認しなければ分からないが、意見として出すのは良いと思う。
- ・「あなたからツナガルまちづくり条例」はいいかも。「まちづくり条例」は他市でもある。
- ・サブタイトルも実際はどんなのだから？と。法制の方では、あまり長いのはちょっとという話はあったみたい。グループとして出す分には良い。後はこちらで考える。
- ・「条例」という言葉はタイトルに付けないといけないのか？→付けないと「条例」なのか他の何かなのか分からない。計画なのか、指針なのか、分からないから付けないといけないのでは。
- ・日本一長い条例名は、現在では・熊本県の人吉市の「子どもたちのポケットに夢がいっぱいそんな笑顔を忘れないこと人吉応援団条例」。それだけ長い条例名があっても話題になってないと言え。長さにそれほどの価値はないかも。

- ・「条例」という言葉が頭に付くとスッキリする。一目瞭然。
- ・条例名は常に使うものではないので、字面で見てもあれなんだろう？と興味を引くものもいい。呼びにくいことで覚えてもらうことではないと思う。
- ・「まちづくり条例」が既にあるのなら「鎌倉づくり条例」「あなたからツナガル鎌倉づくり」。略称にして「ツナガル条例」。まちづくりより鎌倉づくりの方が良いかも。
- ・鎌倉は漢字にすると硬い、平仮名だと柔らかい。
- ・「つなかま条例（意味：つながる鎌倉条例）」面白いと思う。良いと思う。「ツナカマ」「ツナ鎌」
- ・何の条例かと言われた時に、“まちづくり”と言われてもピンとこない。
- ・「鎌倉を愛するあなたを応援する条例」「鎌倉を愛するあなた」が“市民”と変わる“主役”という意味。
- ・市民活動を応援することによって街が活性化することが目的。
- ・街を作る時にその街とは何か？ハード的な建物だったり、ソフト的に人だったり、組織だったり、を想像すると思う。何をどうする条例かを一度考える必要がある。
- ・「応援」が付く名前は挙がっていないが、良いと思う。「かまくら人がつくるまち応援条例」かまくら人は、鎌倉を愛する人という意味を込めて。
- ・条例は市民活動を応援するためのもの。応援はディスカッションの中でも良く出てきた言葉。それは理念の話。
- ・たたき台では、条例は、“まちが目指すものをつくっていく”となっている。より魅力的な鎌倉の街を創っていくことを目的としますと。それよりも“応援”に重きを置きますか？
- ・“応援条例”となると私たちは応援すればいいの？になってしまう。ただ皆が手を叩いて応援するだけになってしまうのはイヤだ。
- ・皆が応援団になるわけでもない、やはり主役である。自分事で言えば。条例はそういう人達を応援するものであっても良い。
- ・人を巻き込む条例。
- ・条例は応援＋自らが主導的に動くを表すもの。
- ・「あなたが主役」、やはり鯖江は上手い。主役を今の言葉で言うとは何だろう？
- ・「まちづくりの主役条例」「あなたが主役のまちづくり条例」やっぱり“まちづくり”になってしまいますか。
- ・主体的に動くあなたが主役は、一人だけでやるより、皆とやった方が良いよということがあった方がいい？→それを応援してくれたり、支援してくれたりするものがあればいい。
- ・「明日の鎌倉づくりにあなたも参加する条例」「鎌倉づくり」は面白い言葉かもしれない。“まちづくり”が使えないのなら、“鎌倉づくり”が良い。
- ・使い古された単語だとまたそこで終わってしまうかもと思う。

- ・鎌倉は「未来」をたくさん使っている。あまり先のことではなく、今日とか明日のことを考える。
- ・「希望」「絆」はすごく使っている。「未来、希望、絆」はもう使いたくない。
- ・自分から発信 自分から発信できない人にも、声を発信していく。必ずしも主体的に動くではなくともいい。“主体的に動く”と“応援”の両方が必要。
- ・やりたいあなたを応援する。「あなたからツナガル応援条例」自分もやって、応援もするが並列。あなたが繋がれば皆がついてくるみたいな感じ。
- ・「あなたからツナガル私たちの街づくり」あなたと私が繋がる。“あなたへ繋がる”は応援っぽい。
- ・共通なキーワードとしては、“鎌倉づくり”“あなた”
- ・あなたから繋げる鎌倉条例。略すると（あなかま）（つなかま）
- ・何でも略せば良いというものではない。
- ・短いのも良い。合言葉のように「つなかま条例ね」と話せて良い。
- ・「〇〇なまちをつくる条例」として、〇〇には好きな文字を入れる。この条例を見た人が〇〇な街をつくるにしておけば、その人が創りたい街を〇〇に入れる。自由に入れる。〇〇さんからツナガルでも良い。
- ・例えば小学生に〇〇に好きな文字を入れて“〇〇な鎌倉”という題名で作文を書かせる。“あなた”の部分で〇〇にする？→どこを〇〇にするかはまだ決めてない。ただそういう条例名もありかなと。
- ・条文に縦読みを入れたら面白いという話はあった。

条例名だと↓

「か・・・

ま・・・

く・・・

ら・・・

条例」

新聞の点示欄みたい。文字にしたとき、平たく並んでいるより、四角いとエンブレムみたいでいいかも。

- ・暮らしやすさ。縦読みより“あいうえお作文”の方がちゃんとしている感がある。
- ・「未来、希望、絆」を取ったタイトルにすると絞れてくる。
- ・「未来」だとちょっと遠すぎる。1年後、3年後などのように具体的な数字をいれる。「5年後、10年後の鎌倉を考える」は良い。
- ・由比ガ浜のネーミングライツで出てきた名前は、「大好き鎌倉の海」があって、それに決まりかけたが、「由比ガ浜海岸」となってしまった。やっぱりそのままの方が良いということ。
- ・一人一人の思う鎌倉らしさは多様で、様々な魅力を持って鎌倉のことが好きだが、全員

共通しているのは、“鎌倉を愛している”そこが一番のポイントと考えた場合、「大好き鎌倉」もいいのかもかもしれない。

- 好きな方法は各自全く違う、考え方も違う、どこが良いのかも個々によって違うが、皆鎌倉に愛着を持っているのは、鎌倉の魅力の一つ。
- だいたい一つの価値で集まることが多いけど、鎌倉はモザイク都市と言われているように色々な角度から、海が好きだ、歴史が好きだ、自然環境が良い、静かなど色々な理由で集まって街が出来ている。しかも歴史的にずっと続いているのも鎌倉と解説に書いてある。
- “大好き鎌倉”
- “モザイク”は日本遺産の一つのキーワード。
- これが好き、これが好き、が繋がっているというイメージ。全員違うのに鎌倉に集まってきている。藤沢や横浜にはないものが鎌倉にはあるという一つの大きな特徴。そう考えると“鎌倉を愛する”はちょっと硬い。“かまくら人”だとそれは何？となるので“大好き鎌倉”という言葉が、一時期流行った。
- 「大好き鎌倉条例～サブタイトル～」、「「スキ」がつながるかまくら条例」鎌倉のどこを好きか？それは鎌倉にはどんな人も受け入れるという土壌がある。
- どんな人でも愛する。→「鎌倉はあなたを愛しています条例」たとえこの人が鎌倉を好きでなくても鎌倉はこの人を愛していますよ。
- ならば、それに対してあなたは何をしますか？まで聞いてほしい。「あなたはどうか条例」
- 歴史も街の魅力も住んでる人も様々な価値観を持っている。それぞれの愛着を寄せて鎌倉に住んでいるのが一つの特徴であると解説に書いてある。その辺りを表現できるワードがあれば、解説と繋がるのかと思う。
- 応援するもいいけど参加もいる。両方必要。
- 行動的に動く応援してくれるよ。この条例で今までやりにくかったことが、出来るようになると思う。
- 活動する人は放っておいても活動するけれど、応援する人は応援の仕方が今の所まだ分からない状態かもしれないから、この条例を見て自分は活動は出来ないけど、応援するよもありだと思う。
- 参加と応援をモザイクではないが、両方を取り込めるような条例にしても良い。お金はあるけど活動は出来ない人、身体は動かないけど一生懸命やってる若い人は応援したい人は結構多い。それが顕著だったのは東日本大震災の時。現地には行けないけれど、毛布や服なら提供できる。
- 応援を入れず、「鎌倉を愛するあなたの条例」がもっと別な言葉に出て来たら良い。「かまくらを愛する私とあなたをツナグ条例」
- かまくらを愛する人が、生き生きと活動出来る為の条例ですね。

- ・子供が喜んでいる顔を見た時活動をして良かったと思う。子供に主人公になってほしいと思っていて、先日子どもが「オレらが作った会館（子ども会館）だぜ オレらが作ったルールなのに勝手に辞めるなよ」と聞いてそんな風に思っていたのかと。小学生の時には自分の思っていることを表現できなかったけど中学生になると初めてこんな風に表現した。
- ・鎌倉も私たちが創っているから、勝手なことはしないで、私たちがこうしていくんだからとなってくれたらいいと思う。それこそ“あなたが主役”。
- ・こうしたいと思っても所詮、私の思っていることなんて・・・と思いがちだが、声に出してみたら、繋がろうとしてみたら、何かが変わるかもという可能性を感じてさせてくれるといいと思う。
- ・困った時に後押ししてくれたり、応援してくれたり、が出来ると良い。
- ・条例名だけで全て分かるように説明するのか 前文で説明する前提でまとめたものにしてしまうのか。条文をちゃんと読んでくれるなら、条文で表現出来ていれば良いと思う。
- ・キャッチーな名前にして、次を読みたくなるようなものが良い。それって何？と思わせないと、と思う。
- ・鯖江の例でいうと、「市民主役の条例」というタイトルを付けたから上手くいっているのかというそうではない。その後の取組の方が 100 倍重要。なので、キャッチーでもシンボリックな名前でも良いかと思う。
- ・鯖江の一番の目玉は何でした？それ対策用の課が出来たことではないか。あと色々な事業を市民に開いた。民間に委託するということ。
- ・この条例の目玉は何？委員会を作って、これからはそこに意見は言えるというのがあるのではないか。市役所の職員の意識を変えるというのは他市ではなかったと思う。今市役所の職員も動きにくかったりしてる。だから職員も動きやすくなるし、市民も動きやすくなる という条例だと良い。
- ・職員も市民も動きにくいのは、誰が動きにくくしているのか？空気、常識、縦割り。今までに前例がないから動きにくい。抛り所がない。条例があればこれを抛り所に担当職員が動きやすくなるのではないか。道筋を作っていくということ。前例がなくても動けるということ。
- ・常にチャレンジしていけるような条例、前例とか空気とかをぶっ壊す条例。
- ・職員にとっても、市民にとっても これからチャレンジしていけるような。こうしたい ああしたい、という思いがあるから頑張って活動を続けていける。
- ・こうしたい、を具体化するには目玉として何があれば良い？前例とか空気とかをぶっ飛ばして。
- ・この条例が出来ることによって何が変わるのか というのが重要。たたき台の内容を見てると理念条例。これが出来ることによって、ボランティア団体にお金が回るようになるとか、支援の寄付がやりやすくなるとか、活動がしやすくなるとか 人が集めやすくなる

なるとか・・・

- ・ここでは何がどうなるとかは全くなく、理念条例。何がどうなるは入れておきたい。ボランティアをする人にとっては支援。人的にも経済的にも支援が必要。行政との協働。そういうのを出来るようにするのが目的。
- ・行政が市民に任せる。こういう条例ができることによって、行政がやっていたことも市民ができるという考えが“普通”レベルで考えられるようになってほしい。これからは自分たちでやるのが“普通”と思えるようになる。
- ・それが子どもたちのレベルまでそういう考えが自然にできる鎌倉になると良い。自分たちでルールを作るのが当たり前になる土壌を作るきっかけになってほしい。
- ・ここ（子ども会館）は自分達で作ったと言ってくれる子どもが増えると良い。また自分たちの後の子どもたちが作ったルールも良いなと言って守ってくれる。それがまた良い。
- ・やってない人にどう広めて知ってもらおうかも大事。やりたい人は黙っていてもやる。
- ・やりたい人にも壁があるので、その壁が打ち壊せるものがあるといい。
- ・立ち返るものがこの条例ですとなると良い。後押ししてくれると良い。
- ・この条例が出来たことで新しく出来たものに印を入れるなどをするとか。
- ・やりたい人だけが知るでは困る。如何に広く知らせるかが大切
- ・関心のない人に関心を持ってもらうための条例がいい。
- ・何かをやる前にこういう条例があるということを市民に知ってもらうことは非常に重要。それは先にやっていく人たちが、広めていくことによって、これから始める人は最初にこの条例を読んでから始めるというようになれば良い。手に取らせることが大切。
- ・ボランティア活動をする人と、ボランティアに全く関心のない人がいる。ボランティアをしている人は全体の約3割くらい。7割くらいの方は自分には関係ないと思ってる。そういう方たちが関心を持ってくれるようにするというのが一つの目玉であったら良い。
- ・ボランティアの裾野を広げる。活動はしなくても良いから、理解をしてもらうだけでも随分と違う。
- ・ボランティア活動をしてますと言っても理解してもらえないことが意外にもすごく多い。何のために活動してるの？こんなことして面白いの？と聞かれる。ひどくなると何か他に目的があるの？お金？とまで聞かれ勘ぐられる。それはよく言われる。それは会社や社会的も言われること。
- ・活動している人は、成り行きでしてる人もいれば、頼まれて最初やっていてどっぷりハマった人もいるから、その裾野がずっと広がれば良いのではないかと思う。自治会活動も同じようなものではないかと思う。PTAも同じで、やってみたら楽しかったということはある。
- ・自分のこととして考えてやると主体性が出てくる。
- ・裾野を広げる「裾野条例」
- ・社会的な地位が上がってくるとボランティアをしなければならないという義務感みたい

なものも生じてくる。それは無視できないと思ったり、大切なものなんだと思うようになる。年齢を重ねてきて、ボランティアの人に助けをもらおうと、有り難いなと思うようになる。70歳までの人、サラリーマンは非常に理解が薄い。そういう人達を今回の条例で掘り起こせば良いかなとすごく思う。

- ・ NPOという名前もある人から犯罪っぽいと……。NPOのイメージはあんまり良くない。NPO、NGOはよくない。甘い汁を吸っている人達というイメージがある。
- ・ 3. 11の時にはボランティアの役割や貢献が評価され、認められるようになった。
- ・ 1歩踏み込んで活動の領域に入ってもらえれば良いかなと思う。
- ・ 自分事としてもらう。自分事でないからピンとこない。自分事は良い言葉だ。
- ・ 24歳の娘は、私がやってるボランティアを割と冷めた目でみてるかもしれないと思う。高校生の時には割と活動してたのに……。でもそうなるのかもしれない。
- ・ 社会の歯車に入ってくるとそちらの方が面白かったり、心地よかったりするのかも。それがいつかこちらの歯車に入ってくるようになれば社会が変わってくるのしょうね。
- ・ 社会人3年目くらいは仕事が忙しくて他は何もできないという人が多い。それが3年ぐらい経つと自分の仕事のスキルを活かして、色々なボランティアに行ったりするようになる。
- ・ 横浜の団体では、若手の社会人が、ITのスキルを活かして地域のことや、病気の人をバックアップしている。
- ・ 若い人は色々な人と繋がるというのは自然に出来ているから、こういうのも自然に受け入れてくれるような気がする。色々な力を持ち寄ってという所に関しては。色々な人が繋がると色々なことができる。
- ・ 自分の立場にしてみるとよく言われるのが、主婦なのに家庭を差し置いて、どうしてそんな活動をするのか？と。それを娘に聞いたことがあって、一応ご飯作ってくれてるしと言ってくれた上で、活動してる母親の背中をみてるので理解してくれている。家庭の中ではこうやってちゃんと見ていてくれるから言わないけど、隣近所の人達など、活動をしてない人たちが言う。自分の子どもはすごく理解してくれている。小さい時からおんぶして会議に出てたりして連れまわしていたので、何をやっているかは謎ではないし、今日のように問かけると知恵を出してくれる。
- ・ 私たちはどっぷりボランティア活動につかっているからそういう目でしかみないけれど、全く興味の無い人にとってみれば、興味のないことなのだと思う。
- ・ でもそういう興味の無い人がこの条例を見て、あれは何！！と思ってもらえるものになければならないと思う。
- ・ 興味の無い人達に市民活動やってくれではないけれど、色々な形でちょっとでも応援してもらえると嬉しい。そういう意味でもちょっと気を引くタイトルの方が、良いのかもしれない。
- ・ ボランティアをする一風変わっている人ではなくて、ふつうの人が面白い感じのものが

出来たねで良いのではないか。そしてこれは何なの？と聞かれて、市民活動をやってない人もやり始められる条例だよと説明ができればいいね。

- ・ 言い方は悪いが、ボランティアはすごく素晴らしいことで、お金と健康と時間があるという事の証でもある。それが揃ってない人はそういうところまで気が回らないから、気が回った時に参加してくださいでもいいのではないか。旅行と同じ。
- ・ 「あなたの気づきを繋げて条例」
- ・ ボランティアに参加するのは、年を取った時だったり、宝くじが当たった時だったり、今まで病気だったのが元気になった時だったり、すごく悩んでいたことがスッキリと解決した時かもしれない、そういう時に参加できればよいと思う。
- ・ そういうボランティア活動も良いが、近所に高齢者が住んでいるから、お手伝いするとか、そういうのも良いと思う。自分が出来ることをちょっとおすそ分けするようなこと、そういう人が増えていくと良い。それは人を助けるということ。世話やきをすること。
- ・ ボランティアと自治会活動はちょっと違うかもしれない。
- ・ 助けたいという気持ちは誰でも持っている。
- ・ 好きです鎌倉、愛する鎌倉 どこかで聞いたことのあるフレーズだが、その言葉に集約される。
- ・ 皆が口に出せる。好き好き条例とか、皆大好きとか。
- ・ 理念は皆が言ってることをまとめてたたき台として作ってくれた。
- ・ 前回うちのチームでは、歴史や自然に関することは他市でも書いているし、市民憲章にも書いているので、今回やめましょうという意見が出た。
- ・ 鎌倉に住みたいから鎌倉に来ましたというまちは、すごく少ないと思う。このまちに住みたいからここに住んでいますというのはそんなにないと思う。京都とかならあるかもしれないけれど。それが出来るのが鎌倉の魅力。それはブランド力。
- ・ 「住みたいまち鎌倉条例」それも良いですね。“住みたいまち”“創りたいまち”
- ・ 前文の「じぶんたちのまちのために自ら行動するという歴史と共に積み重ねてきた良き伝統は」の文面は良いと思う。この前文は良く出来ている。
- ・ これはちょっと長い。前文は最初の2行と最後の3行で良いのでは。これで集約されると思う。
- ・ 知っている人はいいけど、知らない人にとってはそういう歴史があるのかと分かるのは良いと思う。日本初のトラスト運動とかは知ってるかなと思う。
- ・ 逐条開設で、これを入れてもいいかもしれない。おやつ騒動などを入れても良いのではないか。解説として入れるのは良い。前文がこんなに長いと読みません。最後の3行でよいと思う。
- ・ “解説”という言葉は硬いので、“少し詳しく”“掘り下げて”などの方が良い。“逐条開設”も硬い。小学生にも分かるやさしい言葉が良い。

- ・ 1条と前文がかなりかぶる。前文と1条を一緒にしてはどうかということについても、それも併せて検討したら良いのではないか。前文があれば1条は不要かも。益々短くなって良いのではないか。
- ・ 解説は付きますか？ 条例だけならば基本的には付かない。条例の解説部分としてなら付けることはできるが、基本的には条例だけ。逐条開設は付けられる。ならば逐条開設でぜひこの解説を付けてもらいたい。
- ・ 3条の指針についての「わたしたちのうち、市（市職員）の責務・役割をどのように表現するかは、この条例のポイント」にあるように、市が何をやるか、職員がどう責務を果たすかということも具体的に踏み込むのが、一つの目玉にしても良いのではないか。指針で市や職員の役割は具体化したい。
- ・ 条例が目指すものは、今活動している人も、活動してない人も今後やれるようにとか、応援や支援をしたり、また活動はしなくてもせめて温かい目で見てもらえるようにとか、理解してもらおうようになども求めるようにすることが必要ではないか。
- ・ これを見た時にボランティアなど活動をしている人の条例で、活動してない人には関係ないものだと思われても困る。条例の目指すものは、今活動している人も、今関心のない人も含めて全ての人に向けてでない。
- ・ (条例が目指すもの) の中に、参加する人、応援する人、それ以外の人、全ての人のものですと入れれば良いのではないか。活動している人だけのものではなくて、参加してない人たちへもボランティアなどの活動は良いものだと伝え、将来参加したい人への呼び水になれば良いのではないか。鯖江にはそういう主旨のものが入ってなかった。私たちは心の広いところを示しても良いのではないか。
- ・ 鯖江は行政の仕事を市民へ開くためというのが色濃く出ている。下から上がってきた仕事を皆ですという仕組みは必要なことだから、そういう仕組みに関することも明確に書かれている方が良いと思う。
- ・ 逆に指針の市の役割の中で書けば良いのではないか。
- ・ ボランティアは人の手助けをするものもあれば、自分たちの趣味から始まるものもあるし、消防や警察と共にする行政を手助けするものもある。在り方は様々で色々な活動がある。どのケースにも当てはまるようなものが良い。
- ・ 皆がやれますよ ということを最初の1条で書いていけば良い。
- ・ 3条にはやはりもっと具体的に書いた方が良くもしいない。“適切な支援”をより具体的に。例えば5年以内にその仕組みを作りますといったような。誰もが身近な気づいたことを救いあげるようなシステムであったり、行政からの仕事を市民に開放する仕組みであったり。市が行う業務への参入機会の提供も含まれる。
- ・ 基本理念に輝くとか希望とか書いてあるが、ボランティアは常に前向きなことだけではなく、災害や犯罪が起こった時も支援するし、鎌倉にはこの5年以内には自然災害などが起ると予想されているので、助け合ったり、まち全体が疲弊した時に皆で助け合える

ような後ろ向きな理念もあっても良いのではないかと思う。来るべき時のための備えもあっても良いのではないか

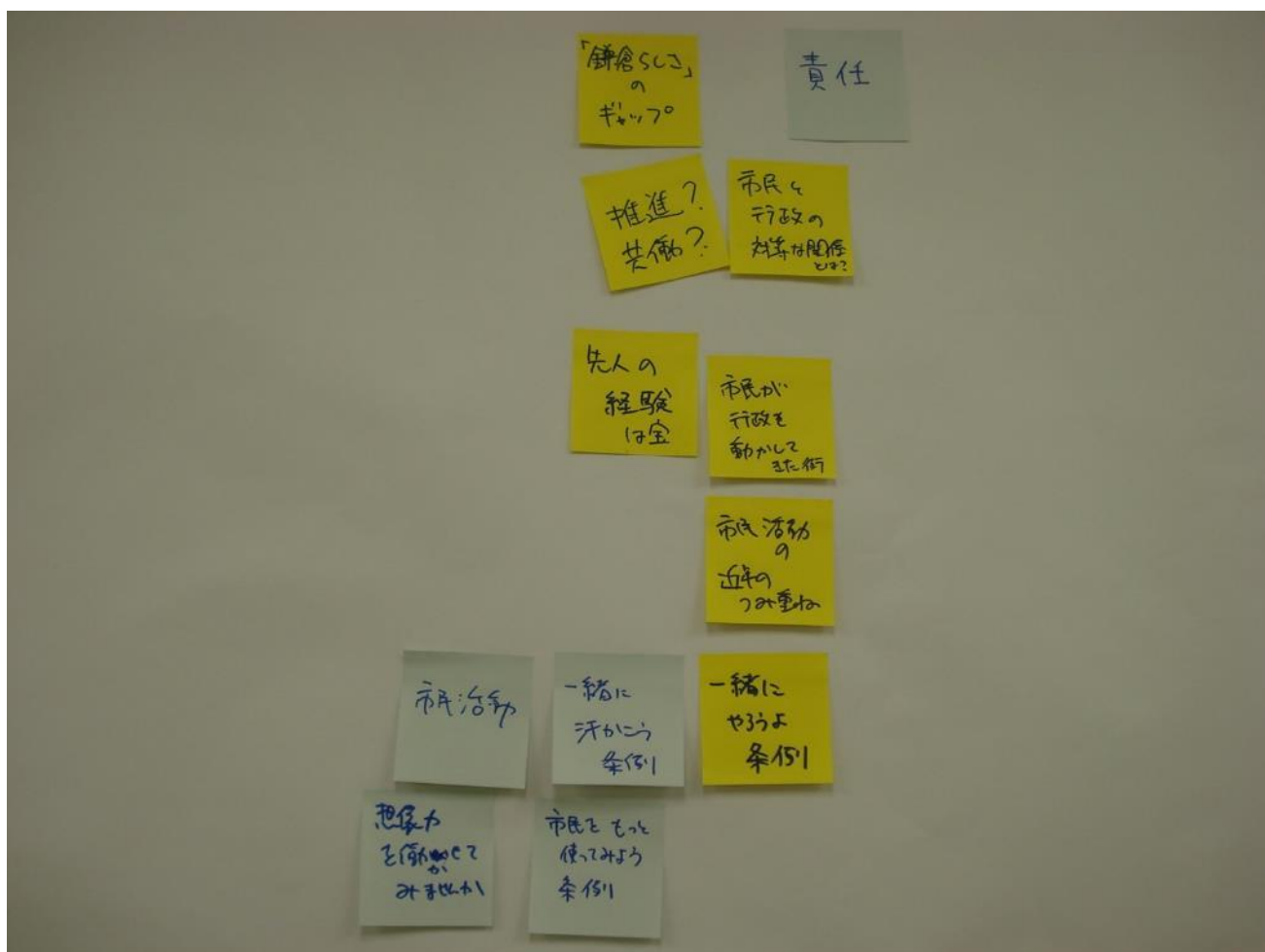
- ・ 3条は急に硬い感じとなる。3条、4条は他と違う感じ。3条の内容は基本理念で良いこと書いてくれているから、必要ないのではないか。
- ・ 市の役割がなく、市の責務しかない。3条は市の責務について書いている。基本理念に市民の責務で、3条に市（行政）の責務となっている。3、4条は硬い言葉となってしまうのかも知れない。
- ・ 「2条を行動指針にした場合、3条に市の指針は2条に吸収することが可能です」と確かにそうですね。
- ・ 市民活動センター条例とこの条例との兼ね合いはどうなるの？→改正になるのではないか。
- ・ 1条は前文に組み込まれ、3条は2条に組み込まれると基本理念、委員会、見直し、3つの条項だけになります。でもそれで良いかも。分かれば同じ内容をつらつら書くことはないと思う。短くても素晴らしい。その分、解説や規約のボリュームがかなり大きくなってしまいかも。
- ・ 5条の見直しは“常に”ではなく期間を明確にしておきたいと思う。3年、5年に1回など年数の明示は必要。“常に”ではやらないになってしまう可能性もある。でもその年数がこないと出来ないでは困るので、柔軟性は残しておいてほしい。
横浜も3年後としたから、今見直しがされているが、明記されてなければしていないと思う。ちゃんと見直しているかは問題だけど、市民の委員会は作っている。
- ・ 年数を明記することは大事。明記した上で必要に応じて見直すも入れておく。例えば3年を目安に必要なに応じて見直しをする。そうすると“必要とは何ぞや？”と言われるかな・・・。
- ・ 前文と1条、前文の前2行と後ろ3行に集約されるのではないか。3条は理念に吸収。4条は委員会設置なのでそのまま。5条は明確な期間を設定。

➤ チーム1発表

- ・ キーワードに挙げたのが“創造力”と引き継いでいる“経験”。
- ・ 最初に、以前はどんなふうにして条例は考えられていたか、それに伴って鎌倉はどんなまちであったのか、どんな市民活動をしていたのか、ちょっと変わっている若者3人が先人たちに学びながら話し合っていた。
- ・ 市民の主動性と行政の主動性について。今回の条例はどちらになるのか？市民活動推進条例ということで、“推進”となるとどうしても市民主動性となる。行政は推進してしまっただけで終わりになるのではないかと。
- ・ 前文を読むと言葉では分かっていたが、自分は全く知らないことが多いと気づいた。その中でいかにこの前文が出てくるかという、鎌倉は昔から市民が主導でまちを動かし

てきたまちということに誇りを持っているのではないかと。実際の話聞きながら実感した。

- 最後の3行にまとまっているのではないかと思う。
- 鎌倉の市民活動について。これをどうしていきたいかの視点からみると、市民活動はハードルが高いもの狭いものというだけでなく、市民から始めていつの間にか公益な活動が盛んになり経験を深めていったもの。
- その活動も市民が一方的にやるのではなくて、行政と協働でやっていくということ。
- 市民活動の全体像をみた時に市民が主体的に行動し、行政も主動、誘導して全てを統一していくような条例を作り上げていきたい。
- 条例名については、何も決まってません。ただ理想としては名前からくる響きも強いが、最初から市民活動を重視してやってきた人たちだけでなく、趣味的にやってきた人にも思わずこの条例を見ようかなと思ひ、そして前文、条例の中身を見たときに、しっかりとした考えに引き込むような、この鎌倉に誇りを持っていけるような条例を作り上げていきたいと思っています。



- ・「鎌倉らしさ」のギャップ
- ・責任
- ・推進？協働？
- ・市民と行政の対等な関係とは？
- ・先人の経験は宝
- ・市民が行政を動かしてきた街
- ・市民活動の近年の積み重ね
- ・市民活動
- ・一緒に汗かこう条例
- ・一緒にやろうよ条例
- ・想像力を働かせてみませんか
- ・市民をもっと使ってみよう条例

➤ チーム2発表

- ・ 条例名については、何のための条例か分かる名前がいいと思う。
- ・ この条例の目玉は何ですか？ということから、自分自身で発信する、他の声を代弁する、条例は応援する+応援される人は主体的に動く、といったことを謳いたい。
- ・ その中で、使い古された単語はあまり響かないのではないかということから「未来、希望、絆」は入れたくない。
- ・ 「まちづくり」というのも、ああそういうことねと先にイメージが出来てしまい、意識を向けてもらうことから外れていくのではないか。
- ・ “鎌倉をつくっていく”、“鎌倉が好き”、“鎌倉を愛している”、“繋がる（ツナガル）”のキーワードが出た。
- ・ 「あなたからツナガル鎌倉創り条例」「かまくら人が創る応援条例」、略した表現で「つながる鎌倉」→「つなかま」。これは皆さんが押していた。その他「みんな大好き鎌倉条例」が出ていた。
- ・ 条例の中身については、前文と1条は一緒にして良いのではないか。前文の中に“歴史”とか“自然”のワードがあるが、それは市民憲章にあるので省略しても良いのではないか。それとちょっと長いので、前文の前2行と後ろ3行と1条を一緒にしてそれを前文としてはどうか。
- ・ 2条の理念はすごく良い。
- ・ 3条は急に文章が硬くなっている。箱として、枠組みとしての市（行政）の責務となっているが、2条の理念に組み込んでも良いのではないか。（2条には市民の責務について書かれているため、同じ所に市（行政）の責務を入れてまとめる）
- ・ 4条は委員会の設置なのでそのまま良い。
- ・ 5条は見直しについてだが、“常に”では結局やらないのではないかとの話で、見直しの期間は明確に1年、2年などの年数を入れた方が良いのではないか。

- ・「ツナカマ」、「ツナ鎌」:繋がる鎌倉を略す
- ・ツナ鎌のロゴマークをつくる

【愛】

- ・鎌倉はあなたを愛しています条例
- ・鎌倉を愛するあなたを応援する条例
- ・大好き鎌倉
- ・みんなが大好き！！鎌倉条例
- ・鎌倉の未来条例～あなたもチーム鎌倉です～
- ・あなたの気づきをつなげて実現条例

【その他】

- ・サブタイトルを付ける
- ・ネット上で仕組みが出来ると良い
- ・一人ではできないことが具現化する
- ・「未来、希望、絆」は使い古されている
- ・常にチャレンジできる雰囲気
- ・「1年後」
- ・前例とか空気とかぶっ壊す条例
- ・活動の裾野が広がるように！
- ・「こうしたい！」を具現化するには？
- ・「オレが会館をつくってきた」中学3年生の意見
- ・〇〇←自由に文字を入れる
- ・挑戦、チャレンジ
- ・縦読み
- ・みんなとやるとできるよ！
- ・あなたの思いを実現する
- ・町づくりの主演 何かできるよ鎌倉
- ・自分の持っているものをお裾分け
- ・世話やき
- ・市民活動に関心のない層が気になるタイトルに！
- ・キャッチーなタイトル→条文を読んでもらえるように
- ・「条例」を前につけられないか？(例:「条例は〇〇〇〇」)
- ・ボランティア、NPOへの支援(例:人的、経済的)
- ・行政発の事業、市民発の事業
- ・関心のない層が市民活動に理解、応援、参加することを目指す
- ・自分達でルールをつくる土壌をつくる
- ・自分自身で発信する+他の声を代弁する

- ・条例は「応援」+「主体的に動く」

【疑問】

- ・この条例の目玉は？
- ・何の為の条例か？ 分かる名前

➤ 発表まとめ

- ・A3にまとめてもらった内容を見て、3ヶ月でなかなかここまでは他の会議ではない。短い期間で質の良い議論が展開したことに感心していた。
- ・非常に良いメンバーに恵まれて、目的がはっきりしていて、非常に意識の高い皆さんであるがゆえに決して外していない。非常に的確な指摘が多い。なので事務局も全部採用せざるを得なくて、これだけのボリュームになったと思う。そういう意味で非常に良いまとめが、短い期間でできた。凝縮度の高い議論が出来た。
- ・最後に非常に完成度が高い状態になっていると思う。もう出尽くした中に、繰り返してやってやっぱりそうだよね ということが多く、新規に出てくることは多くはない。
- ・改めて条例条文を見てみると、これだけなの！と思うが、その中にまとめてもらったA3にいったいどのエッセンスが詰まっている。色々な内容が凝縮されたものになっていると思う。
- ・市側が文章を作っていくには材料は十分だと思う。
- ・またこのグループでは若い世代と市民活動の経験を重ねてきた先輩たちとの話し合う中で、短時間であっても体験談を聞いて学び合いができていくのは良いなと思う。
- ・市民の活動、色々な活動、行政側の受けとめ、色々あるが、やはり情報の共有、どういふことが必要なのか、どういふことが望ましいのか、という議論は短い時間でも回数を重ねて、やっていけばいくほど熟成度が高まるものだという事を今日の回で象徴しているように感じた。
- ・一方でこのメンバーだからこそ息が合い、理解し合える部分もあるが、他にもたくさん活動をしている人たち、市民の皆さんにも、どうやって理解してもらい、どうやって広げていくか、職員の皆さんが受け止められるのか、という課題もたくさんある。